

年 組 ( ) 名前

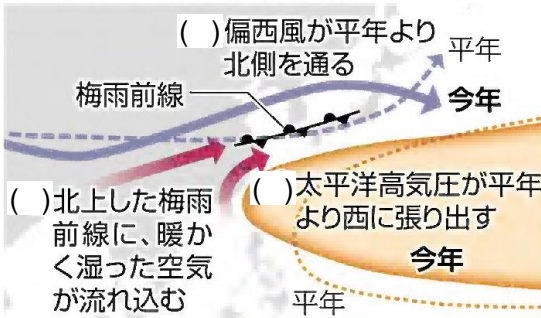
サイン

# 梅雨入り 記録的早さ

## 九州～東海 次は関東甲信か

### 長梅雨の可能性

#### 梅雨入りが早まった仕組み



今年の梅雨入りは、九州から東海にかけての全ての地方で、統計史上1、2位という記録的な早さとなった。梅雨入りしていない関東や東北などでも、ぐずついた天気が続いているが、

現状では梅雨明けも早くならないという見通しはなく、全国的に長梅雨となる可能性がある。

気象庁によると、九州と東海は11～16日に相次いで梅雨入りした。四国と近畿では、平年の3週間前に梅

雨が始まり、1951年に統計を取り始めてから最も早い記録となった。九州南部と北部、中国、東海も2番目の早さだった。

気象庁異常気象情報センターの竹川元章所長によると、今年はインド洋上空の

気象庁異常気象情報センターの竹川元章所長によると、今年はインド洋上空の

活発な対流活動の影響で、日本付近を流れる偏西風が北側に寄せられ、日本の南海上に広がる太平洋高気圧も西側に張り出した。このため、梅雨前線が平年より早く北側に押し上げられた。そこに暖かく湿った空気が2方向から流れ込み、大雨を降らせている。

#### 今年の梅雨入り日

地方	梅雨入り( )内は平年	平年差	統計史上
沖縄	5月5日	5日早い	13位タイ
奄美	5月5日	7日早い	12位タイ
九州南部	5月11日	19日早い	2位
九州北部	5月15日	20日早い	2位
四国	5月15日	21日早い	1位
中国	5月15日	22日早い	2位
近畿	5月16日	21日早い	1位
東海	5月16日	21日早い	2位
関東甲信	(6月7日)	1位は5月6日(1963年)	
北陸	(6月11日)	同 5月22日(1956年)	
東北南部	(6月12日)	同 6月1日(1959年)	
東北北部	(6月15日)	同 6月2日(1997年)	

※ ( )内は梅雨入り前

次に梅雨入りするのは関東甲信とみられるが、気象庁は「21日頃は本降りの雨となりそうだが、週末から週明けにかけて晴れ間も予想される。すぐに梅雨入りと判断する状況ではない」と説明。梅雨明けの見通しについて、「梅雨が早く始まったからといって、早く終わるとは限らない。長い梅雨になる可能性もある」としている。

◆今年九州から東海までの広い地域で記録的に早い梅雨入りになりました。なぜでしょうか。

(2021年5月20日 読売新聞夕刊より)

【1】統計を取り始めてから最も早い梅雨入りを記録した地方と、いつもの年と比べて何日早かったかをそれぞれ書きましょう。

(地方名) (日数)


【2】記事を読んで、イラスト「梅雨入りが早まった仕組み」の説明部分が正しい順番になるように1～3の数字を( )に記入しましょう。

【発展問題】雨は世界中の人々の暮らしにさまざまな影響を与えます。雨が降り生活にもたらすよい影響と、逆に長梅雨で心配される影響について調べて、それぞれ裏に書きましょう。